

哨戒艇報告は捏造？

米国大学教授らが記者発表

木村雅夫

七月九日、東京の特派員協会記者室で二人の米国大学教授らが、韓国の民軍合同調査団（JIG）が発表した韓国海軍哨戒艦「天安」の「魚雷の爆発による沈没」の科学的証拠に対して強い疑問を提起した。

米国バージニア大学教授（物理学）イ・スンホンは、実験室での爆発実験と比較した結果、次の2点を明らかにした。

船体から発見された白い化合物と魚雷から発見された白い化合物とが爆発により生成された化合物であるとJIGが主張しているが、それらは爆発によって生成された物質ではない。また、JIGのデータの一部はおそらく捏造されていると思われる。

更に、ジョン・ホプキンス大学助教授（国際政治学）ソ・ジェジョンとともに、回収された船体および兵士たちの状態には衝撃波に影響を受けた痕跡が見られないこと、魚雷が北朝鮮製であることの根拠とされた「I」というインク文字が残っていたことは科学的にも常識的にもおかしいことを主張した。両教授は韓国政府に対して調査を差し戻し、より客観的科学的厳密な報告書の提出を促すことを提案した。

海外特派員からの質疑では、「日米の普天間基地問題検討時期のタイミングで起こったが関係があると思うか？」の質問に対して「影響があったと思う。日米会談でクリントン国務長官と鳩山首相がこの事件について言及した」と答えた。更に「トンキン湾事件を思い起こさせられた。どう思うか？」と米韓軍による事件の捏造を疑う質問が出た。発表者は断言を避け、JIGと韓国政府に客観的で厳密な再調査を求めた。

なお、これらの発表内容は国連安全保障理事会クロード・ヘラー議長（メキシコ国連大使）宛て六月一八日に提出され、安保理事会で更なる審議を行う前に、韓国政府に対して、調査を差し戻し、より客観的、科

学的、厳密な報告書の提出を促すことを提案している。

安保理は七月九日に哨戒艦沈没を「攻撃」と非難する議長声明を採択したが、中ロが調査結果への評価を留保するなか、北朝鮮との名指しを避け、「決議」でなく「議長声明」と格下げした。

記者室を満杯にし予定時刻を延長し熱気に満ちた記者会見だったので、あくる日の報道を楽しみにしたが、あまり大きくは取り扱われなかった。たとえば東京新聞（七月一〇日朝刊）では、2面に「調査結果に疑問」のタイトルの2段記事が出たのみで、週刊金曜日（七月一六日号）では、『北朝鮮魚雷が哨戒艦沈没原因』に疑問を表明した市民団体に韓国政府が「圧力」と題する記事の中でこの会見写真を載せているが記者会見内容は紹介していない。

韓国政府が重要な基礎資料を明らかにしていないし、北朝鮮も終始関与していないと主張しているなどの状況から、韓国の民軍合同調査団の発表が疑わしいことは間違いないが、確かに確証は得られていない。この発表が米韓両軍のでっち上げであることが判明すれば、普天間移設問題、米軍再編、日米安保条約について、現日本政府の姿勢を糾弾することができる。トンキン湾事件のように何十年も経過してではなく、早急に多くの基礎資料を明らかにし、再調査して全てを明らかにすることが求められる。私たちは、これのみに拘泥することなく、それでも今後

（きむら・まさお／反安保実）